

ナレッジ・マネジメント論

担当者 古賀 広志

開講時期 後期

単 位 2

●講義の概要

ナレッジ・マネジメントとは、簡単に言えば、企業の日常業務活動を反復的に遂行する中で生まれてくる「気づき」や「目のつけどころ」あるいは「立ち居振る舞い」を、組織の中に定着させることを目的とする経営管理活動の側面を指します。もちろん、経験を通じて蓄積されるノウハウや着眼点が生まれる背景には、自立性や自発性が深く関わっています。言い換えれば、「上司や組織から守ってもらっている」というPOS（認識された組織の支援）が不可欠であるとともに、OCB（組織市民行動）のような自発的行為が推進力となります。そのため、ナレッジ・マネジメントでは、コマンド（命令）やコントロール（統制）というよりも、「現場を温かく見守る」や「失敗しても尻ぬぐいをしてくれる」などのニュアンスのマネジメントが重要になります。さらに、新しいマネジメントの方向性は、現場任せではなく、科学的あるいは体系的に現場の自発性を生み出すように方向づけるというタイプのマネジメントと言えます。このようなナレッジ・マネジメントの基本的な考え方を紹介し、検討するために、本年度は、上田泰編『従業員と顧客の自発的貢献行動』多賀出版を輪読します。なお、日常業務活動を通じた経営革新の道筋を探るといふ狙い（と講義時間数の関係）から、新製品開発や技術革新などの研究開発活動における「知的資産管理」は取り上げないので、留意して下さい。

●講義の到達目標

「ナレッジ（知識）は日常業務活動の中に埋め込まれている」という考え方を説明した上で、組織における知識活用を実現するための組織的努力のやり方についての理解を深めること、そのための方策を探るための手がかりを体得することを到達目標とする。

●講義計画

第1回：導入

第2回：POSを考える。

第3回：コミットメントを考える。

第4回：正統的周辺参加を考える。

第5回：上田泰編『従業員と顧客の自発的貢献行動』多賀出版を読む（第1章）

第6回：同書を読む（第2章）

第7回：同書を読む（第3章）

第8回：同書を読む（第4章）

第9回：同書を読む（第5章）

第10回：同書を読む（第6章）

第11回：同書を読む（第7章）

第12回：同書を読む（第8章）

第13回：同書を読む（第9章）

第14回：同書を読む（第10章）

第15回：まとめ

●成績評価基準と方法

講義における質問や討論への参加度、出席状況などをもとに総合的に評価する。

●テキスト又は参考文献

テキスト 上田泰編『従業員と顧客の自発的貢献行動』多賀出版 2015

●受講上の留意点

受講生の積極的な参加を望む。